

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円は調整の動きをこなしつつ上値を追う展開か

[4月11日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		4月4日～4月8日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	122.54	124.23(8)	122.27(4)	124.04	+1.52
ユーロ・ドル	1.1042	1.1054(4)	1.0855(8)	1.0868	-0.0175
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	26,985.80	-680.18	日本10年債利回り	0.232	+0.007
ダウ平均株価	34,583.57	-234.70	米10年債利回り	2.658	+0.276
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 11日 中国3月消費者物価指数、中国3月生産者物価指数
日銀地域経済報告(さくらレポート)
英2月鉱工業生産指数、英2月製造業生産指数、英2月貿易収支
- 12日 英3月雇用統計
独3月消費者物価指数確報値
独4月ZEW景況感指数
米3月消費者物価指数
独2月経常収支
米3月財政収支
- 13日 日本2月機械受注高
NZ準備銀行(RBNZ)政策金利
中国3月貿易収支
英3月消費者物価指数、英3月生産者物価指数、英3月小売物価指数
ユーロ圏2月鉱工業生産指数
米3月生産者物価指数
カナダ銀行(BOC)政策金利
- 14日 豪3月雇用統計
欧州中央銀行(ECB)政策金利
ラガルドECB総裁記者会見
米3月小売売上高、米新規失業保険申請件数、米3月輸入価格指数
カナダ2月製造業出荷、カナダ2月卸売上高
米4月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値
- 15日 米4月NY連銀製造業景気指数
米3月鉱工業生産・設備稼働率
米2月対米証券投資

【前回のレビュー】米国での利上げペースの加速や日米の金融政策の違いはドル円のサポート要因ながらも、テクニカル面での過熱感も重石となりそう。こうした中、ドル円は中期的には一段高が期待できるものの、短期的には121～122円台を中心に向感を探る動きになるとした。

【米国での大幅利上げ期待でドル買いに】

米連邦準備制度理事会(FRB)のブレイナード理事が、5日に「現在のインフレ率は高すぎる」として、インフ圧力を抑える取り組みが最優先との認識を示した。利上げを着実に進めるとともに「早ければ5月の会合で急速なペースでのバランスシート縮小を開始することで、金融政策の引き締めを続ける」と発言した。

この発言前に5月のFOMCでの0.50%の利上げはおおむね織り込まれていた。そうした中、ハト派として知られるブレイナード理事の「5月にも急速なペースでのバランスシートを縮小」との発言は市場への強いインパクトとなった。また、ブレイナード理事はインフレの動向次第では、より強い引き締め措置を行う用意があるとの認識を示し、0.50%の利上げを複数回実施する可能性を示唆した。

6日（日本時間の7日未明）に発表された3月15～16日に開催分の米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨では、「5月にもバランスシート縮小を開始して、月額950億ドルを上限とする」「国債は600億ドル、住宅ローン担保証券（MBS）は350億ドルを上限として、償還を迎えた債券は再投資しない」「ロシアのウクライナ侵攻がなければ、多くの参加者が3月に0.50%の利上げを支持していた」「参加者の多くが今後の会場で0.50%の利上げを1回、または複数回行う可能性に言及した」といった点が明らかとなった。

7日には米セントルイス連銀のブロード総裁が講演で、今年後半に「3.00～3.25%への利上げを支持する」と述べた。これら一連の利上げペース加速、早期のバランスシート縮小に関するアナウンスにより、米長期金利が上昇するとともにドル買いの動きにつながっている。

CME FEDウォッチによると、5月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での0.50%の利上げ確率は80%前後まで上昇している。こうした状況から5月のFOMCでの0.50%の利上げはかなり織り込まれたとみられる。急速なペースでのバランスシートの縮小や0.50%の複数回の利上げなどは今後の経済指標やインフレ指標の動向などにより、一段と織り込みが進むとみられる。

その場合、ドル円は3月28日の高値125.09に再びトライする可能性が出てくる。なお、125円の水準は日銀の黒田総裁が2015年の円安局面で円安進行をけん制した「黒田ライン」と呼ばれており、当局からの円安けん制が出やすい水準との見方も出ている。

11日の週には12日に3月の米消費者物価指数の発表がある。事前予想は前年比では+8.4%となり、約40年ぶりの高い伸びとなった前回の+7.9%から伸びが加速する見通し。コアの前年比は+6.6%の予想でこちらも前回の+6.4%を上回る見通し。米消費者物価指数が予想通りかそれ以上の伸びを見せると、金融引き締めへ思惑がさらに強まりそうだ。

米国での金融引き締めが加速するとみられる中、米10年債利回りは7日に2.67%前後まで上昇して、ドル円は8日に一時124円台前半まで上昇した。ドルの底堅い動きが見込まれる中、高値圏で調整の動きをこなしながら、ドル円は上値を追う展開が続くとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、121.50～126.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、12日に米3月消費者物価指数、米3月財政収支、13日に日本2月機械受注高、米3月生産者物価指数、14日に米3月小売売上高、米新規失業保険申請件数、米3月輸入価格指数、米4月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値、15日に米4月NY連銀製造業景気指数、米3月鉱工業生産・設備稼働率、米2月対米証券投資などがある。

【ユーロドルは軟調な推移か】

ユーロドルは下落基調で推移している。ロシア軍によるウクライナの民間人虐殺の疑惑が浮上して、ロシアへの追加経済制裁の可能性が高まったことや米国での金融引き締め加速観測などからユーロ売りドル買いの動きにつながった。

14日に欧州中央銀行（ECB）理事会が開催される。今回は金融政策に変更はないとみられる。前回（3月10日）の理事会では、インフレ圧力の高まりを背景にパンデミック緊急購入プログラム（PEPP）は3月末で終了、資産買い入れプログラム（APP）も第3四半期で終了することを決定した。政策金利は0%で据え置きとして、利上げについては量的緩和の終了後「しばらくしてから」とした。ユーロ圏でもインフレ

率の高進が警戒されており、今後の利上げに関してラガルド総裁が具体的な時期や水準などに関するヒントを出してくるかが注目される。

ドルの堅調な動きを背景にユーロドルは1.0900を割り込んで一段安となっている。FRBに比べてECBの金融正常化への動きが相対的に弱いとみられ、ユーロドルは軟調な推移が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0700～1.1150ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、11日に中国3月消費者物価指数、中国3月生産者物価指数、英2月鉱工業生産指数、英2月製造業生産指数、英2月貿易収支、12日に英3月雇用統計、独3月消費者物価指数確報値、独4月ZEW景況感指数、米3月消費者物価指数、独2月経常収支、米3月財政収支、13日にNZ準備銀行(RBNZ)政策金利、中国3月貿易収支、英3月消費者物価指数、英3月生産者物価指数、英3月小売物価指数、ユーロ圏2月鉱工業生産指数、カナダ銀行(BOC)政策金利、14日に豪3月雇用統計、欧州中央銀行(ECB)政策金利、ラガルドECB総裁記者会見、カナダ2月製造業出荷、カナダ2月卸売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。